畧譜　北

共十二

兼松　片桐

兼康　片山

爲林　片岡

春日

中興　下條

二百十一冊ノ内

力部　現共十一

内閣文庫			
一五六函	二一一冊	三六〇八八號	和書類
一九架			

392

内閣文庫		
番號	和	36088
冊數	211(67)	
函號	156	17

国立公文書館
National Archives of Japan

閣
392

記録御用所

菅原姓　高三百俵

簗松　本役　居門遠柏　万字

越前國小庄簗松村より出る簗松と称する

一 正盛　民代　藤三清尉斎藤嫡子

二 簗松又四郎　不知　三 修理亮

織田信長公に仕　後雄子仕又大閤に仕ふ

長[illegible]年

東照宮　加ニ前田加賀大納言利常　豊臣大閤

一 初く

東照宮へ両[illegible]もち毛人又四郎も一同ニ在て

長湫合戦ニハ常眞卿ニ従ひ小牧ニ仕附

尾州市宮欲の為ニ破られ而尾張ニ浪居る

とぞ

東照宮ハ左之加賀様ぞ敵悉退散而とん

蔵と号し慶長五年上杉征伐の節ニ付供

東く従事又関ヶ原御陣ニ付候尾州茶門

仕え[illegible]光ニ江戸ニ[illegible]波阜城

とぞ紀甲斐守[illegible]

より人数と号川之謀付又四郎一柳監物

三河と渡御其四と添ひ二陣後[illegible]

慶長五年[illegible]

薩摩守殿へ附属被遣候の時尾張大納

言殿へ附属○大坂夏陣尾張殿ニ従

仕奉○寛永四年九月五日死ス法名[illegible]

尾州公作法座頭[illegible]

一 正勝

葉松薫大夫

病ニより辻座ニ仕え寛永四年[illegible]

正成ハ信長信雄ニ奉仕シ其後[illegible]
[illegible]
天正[illegible]二年[illegible]
[illegible]二年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
文禄[illegible]年
尾[illegible]
[illegible]

八月廿七日死六拾三葬同寺[illegible]

正成　二男　母同　又八郎
三男　萬松六右衛門

正行
織田信雄ニ仕尾州[illegible]長嶋の陣[illegible]討死
死十八歳

正広　四男
萬松又左衛門
尾張大納言殿ニ奉仕六百石頂戴
[illegible]年

台徳院殿
大猷院殿　御上洛の時尾州熱田ニ而被為[illegible]
台徳院殿ニ御目見[illegible]又
大猷院殿ニ御目見[illegible]寛永九年
九月廿八日死六拾七葬[illegible]

正直
実[illegible]男
萬松小兵衛　又作　法名[illegible]
慶長十三年[illegible]
台徳院殿ニ[illegible]十四年廩米五百俵

〇同十九年大坂冬御陣
依て同廿年七日天王寺表ニ而高名仕
此組中歎く掛り御取成ニ而今御陣
後諸職ゟ五百石 元和九年四月
元和五年五月
八月大御番組頭
廿四日
大猷院殿ゟ拝領〇寛永五年十二月五日
御徒頭〇同十年十二月晦日布衣〇同十年
四月十六日御目付〇同十二年十二月十四日加
秩千石〇同十四年 肥前国嶋原一揆の時

上使十二月廿五日發足〇翌年正月十九日
寛永〇正保四年七月六日大目付加秩弐千
石〇寛文二年九月六日
常憲院殿附〇同四年叙爵〇寛文十年
十月廿四日御前ニ而老年之能ニ仕り候
御意之旨ニ而時服之羽織黄金を拝領〇同
六年六月廿五日病死〇同年七月十二日
死七十有八 東園院青松寺ニ葬ル 以外御落
日光山代官所 伏見大坂御安國

以後不称右門稽古番被初しと云

正員　葉松弥五兵衛　八十七

実ハ葉松弥之助次男

明暦二年十二月廿八日初見〇寛文八年
十二月十七日家督ニ而五百石高合〇同
九年二月廿五日御書院番〇延宝八年
駿府在番中御職御帰府迄遠慮被仰付
改易〇貞享元年二月御免被仰付
同年十月十三日
同年七月十一日元組御書院番入今相勤〇

宝永二年五月廿九日病気ニ付小普請〇同三年十二月
三日死去稽古所芳泉寺葬

正備　葉松弥兵衛

宝永二戌年四月廿日家督〇正徳四午年
同月二日御書院番〇[redacted]明和元申年三月十
六日病身ニ付依願〇明和元申年六月廿日
死　七十三　稽古所同寺葬

正頼

実ハ戸田十左衛門二男 雅楽

兼松斧宮

寛保四子年二月廿六日家督 番子ヲ定学二
丑年十月十九日初見○寛延二年年十
二月廿日西丸御小性組○宝暦十一巳年八月
二日御小十人○同十二午年十二月十九日西丸
御留守居 明和八卯年正月十六日御小十人組頭○天
明元丑年七月十六日西丸御留守居○同元年十
一月十二日死六十九歳同月葬

正美

実ハ日能恒十郎三男

兼松弥十郎

天明五乙巳年十二月廿五日養子家督○寛政元
酉年十一月廿二日死武相二十歳同月葬

正房

実ハ同兼松弥五左衛門次男

兼松彦右衛門

寛政元酉年八月四日養子家督○同十二
戌年十二月十九日死十九歳同月葬

一 正明

実松浦安右衛門照二男
葉松安次郎　後　左京

高三百俵

寛政三亥年三月御部屋住ゟ被召出御小納戸
同年九月十九日御小姓被仰付同九年九月十八日
御小姓組頭同十年三月十四日小性組番頭格
同年十二月廿日奥附

藤原姓　高三百石

葉松　彦太夫　後二之輔　折返拝領元高三ツ

越前國葉松村ニ住居致し候よし
後尾張國ニ移葉松備前守正盛
其代繼徳本正吉嫡男

葉松源左衛門　又八郎

一 正蔵

十八歳の時より
織田殿ニ仕候其後信長の後尾張浪々
須田又左之ニ在候孝子ニ仕又常真公ニ仕

只百石を賜ふ天正十二申年長湫の役
八月廿日尾州岩倉路にて
東照宮ニ御ニ尾州鳴村ニ而正吉正
成住居の所ニ於て羽黒国ニ渡リ下と
仰下され右渡の所歓鳴村ニ而首を備へ其月
正成浅井左馬伝ニ甲士を伴ひ附而村清
正ト言歓云と追掛首数級打取正成も
自身甲首一級取り等様ニ候ニ付小兵ニ
て寄軍功の旨 正蔵ニ状併御備ふる

下候ニ文禄三午年正成ハ摂津大公寺
西尉牧野半右衛門尉と改
東照宮ニ於ニ仕ル慶長二酉年五百石を
賜ル同五子年関ヶ原陣 依之ニ大番組
頭ニ同七寅年加増二百石ニ同十九寅年
大坂冬陣ニ御供番并御母衣と成 御馬前ニ
従ひ翌年夏陣ニハ大坂ニ而表ニ甲
首一級を打取り元和二辰年尾張大納
言殿ニ附属父子の内二千石之内六百石ハ

外又當正房へ被下實父跡十七石余年
九月廿二日死七拾八歳戒名法[illegible]居士
政壽寺葬

正房
兼松又四郎　正態
元和元卯年
台徳院殿へ御目見同二辰年父又四郎正成蔵屋敷
大納言殿へ御附属の時正房儀もかりそく

江府ニ残父跡七百石之内○同八戊成年ニ
書院番○實父跡九申年
大猷院殿御附属同十酉年十二月
七日加増二百石○同十五寅年五月八日
御使番○同十六卯年十二月晦日布衣○同
廿一申年十二月廿日御先手足軽頭
戌年瘧疾故ニ不叶御奉公松本
氏領地ニ留り金石自分之仕置
正房苦労之事多く預り附服部兼松述

并父之遺跡正房へ被下寛永十七庚辰年
九月廿二日死去七拾八歳尾張ニ而死去
政秀寺ニ葬

正尾

兼松又四郎　正熊

元和元卯年
台徳院殿へ御目見同二辰年父ニ正成尾張
大納言殿へ附属の時正尾御附ニなりて
江府ニ残父之七百石之内ヲ同戊戌年ニ
書院番ニ寛永九申年
大猷院殿御目見同同十酉年十二月
七日加増二百石同十五寅年五月八日
御使番同十六卯年十二月晦日布衣同
廿一申年十二月廿日御目付正保三
戌年癈疾ニ付御役御免　柘木
民部少輔ニ而嘗御加増石高ニ而仕置ニ
正尾寛文七未年等ニ付服部被仰付

職分仕候御清中別ニ之上ニ京都へ参良
生仕ハさ台出御法ニ申医師出浦より石見
守へ奉丁同己亥年正月廿二日御(?)改(?)
慶安二寅年九月六日病没ス介(?)擬(?)ニ上
納染ふ丸近之免ふ
嚴有院殿ニ御目見被仰出候ニ付上意を
嚴有院同日
嚴有院殿ニ御継目同己卯年十一月廿六日加
様六百石ニ寛文五乙巳年二月廿八日病卒

五百俵ニ同十三〔寛永之〕丙子年正月廿六日御除(?)名(?)
被仰付加様五百俵ニ慶安二寅年十二月廿八日
〔老〕病死ニ付御番御免ニ同年十二月二日死七拾歳
牛込(?)松寺ニ葬

正栄
尾張殿家臣ニ有之
二男
蒲松源之丞

正方
尾張殿家臣ニ有之
三男
蒲松金(?)一郎

一正勝
尾張殿家臣ニ有之
五男
蒲松源兵衛(?)
尾張殿中家臣ニ有之

一 正春　　兼松源之助

寛永十七辰年二月十三日初御目見○慶安元子年十一月御小性組○延宝二寅年七月十二日[illegible]○[illegible]七未年六月三日死
法名九乗同寺葬

一 正寔 子
初 正郷　　兼松又四郎　　又之助

延宝七未年七月九日御目見○天和二戌年（同八月十九日御番）六月二日御小性組○元禄四未年十二月廿八日大坂御目付代○同六申年十一月廿八日御腰物○宝永三戌年三月十九日[illegible]城引渡同月廿八日御腰物奉行同十五日[illegible]○同五子年三月廿三日死 法名九乗同寺葬

一 正紹　（実ハ兼松小兵衛三男）　兼松又四郎　豊之助　源之助

宝永二戌年三月廿八日初目見○同七子
年六月廿七日家督○同年七月廿二日
御小姓組○享保四亥年六月廿六日死年
七某同寺葬

正尹
兼松兵次郎
享保四亥年七月廿七日家督弟勘負へ
三百石分知○同九辰年正月十一日死年十
三某同寺葬知行召上家絶

某
二男
兼松勘負
父家督の節三百石分知
絶三百石勝手同寺葬

三男
兼松吉太郎

正條
享保九辰年正月十日兄初年死後家
絶の所同年二月六日正條名跡被仰付代々
寄合の所を以旧領の内二百石を被下小普
請○同十九寅年十二月二日御書院番○

○元文元辰年十二月廿一日病死○宝暦
十辰年二月十六日死　[illegible]
[illegible]

正景
実ハ□□仁兵衛景清二男
葉松又四郎
三平郎
高三百石
宝暦十辰年五月七日父跡相続○安永二
午年四月十二日病死ニ付書院番○寛政二
戌年四月二日御番御免
同七年十二月七日病死

本姓
葉松
葉松源之丞正盛四男
高三百俵
家紋　丸ノ内二ツ柏
丸ノ内抱柏
[illegible]二柏

正長
葉松又八郎
正保二酉年尾張大納言義直卿ニ仕ふ
より同三戌年[illegible]高三百俵○同年
四月初見○同年七月御書院番○元禄
七戌年病死○同十五午年五月二日死

七拾六歳同所全長寺葬

正保

実ハ長田村□□□二男
兼松源左衛門　隠居　泰斎

元禄八亥年七月十八日御年寄子ニ同十
五午年七月廿二日家督ニ享保八卯年
十二月廿六日致仕ニ元文二巳年七月十
三日死七拾三歳同寺葬

賢隆

兼松平八郎

享保八卯年十二月廿六日家督ニ同九辰
年十月九日御書院番入ニ同十四酉年十二
月廿八日病気ニ明和同寅年六月六日死
六拾七歳同寺葬
○享保十一午年三月廿七日小倉康稲孫
ゟ継子稲ヱ嫁

正易　菊松宗之儀　福之助

明和四亥年九月廿日家督〇同七子年
十二月廿四日西丸小性組〇同七寅年十二月
廿四日病免〇（安永四未年十月十八日免ニ付出ル）寛政元酉年同月廿二日
被仕〇同九年十月廿八日死　年四十五　日寺

正芳

実佐野中九右衛門政信二男
菊松八郎兵衛　主税

高三百俵

天明元丑年十二月十二日御番入〇寛政
元酉年十一月廿二日家督〇同年六月
十二日御書院番〇同八年十二月十日西丸
附〇寛政七年三月十日小十人頭
御目付〇同八年九月廿四日　御先手
鉄炮頭

丹波姓

高三百俵内八人扶持

兼康　家督　松浦豊後守日光

先祖針醫博士左衛門佐授位丹波康頼從領為嗣

為康頼十七代後胤典藥頭新右衛門尉継紀

付之中医相続康頼十六代又典藥頭左衛門尉之

兼康者右衛門之氏子也兼康より六代

町医ニ而康之元紀孫也

紹順

兼康號庵

元禄十二卯年二月廿九日御目見○正徳
元未年十一月十一日御切米百俵御加増被下
奥医師○同六申年五月十五日法眼○
享保十二未年八月九日死七十余歳
地谷中宗賢寺葬
又被仰付候而儀は御宅之御口中療治
二三度差出候而つとめ候よし
元禄二巳年

匹隆（トモタカ）
兼康英庵　兼之助
享保元申年八月九日御目見口歯科
被仰付○同十二未年十一月廿日家督○
同二十卯年十一月廿七日
利根姫君御歯療被仰付候年○同年十二月廿六日
番合○宝暦二申年十一月廿日死五十余歳
同所葬

弘道　兼康弟元

元文二巳年三月六日初見人柳尾敬甫齒
磨菜號之○寛保二申年十二月廿六日
家督○明和五子年九月廿一日
澤岩信園丁亥年中病因出火○同年
十月十八日常会○天明六午年十一月
十六日奥醫師下　寛永二丙年起書記御改

○寛政三亥年四月四日死六十六歳
同日葬

石槙（キニ　エタ）　兼康弟順　文次郎
三百儀五人扶持
明和六丑年十二月廿二日初見國齒救
號之○寛政三亥年七月六日十七歳絶

菅原姓　　二百五十石

瓦林（之河ヲ小林）　紋　蔓柏

右大臣道真公男淡路守氏良後

末流瓦林玄蕃吉成子

良継

瓦林二郎玄清　初又二郎之清

讃岐守民部大輔政成ニ仕後浪人○

（寛文二）万治三子年九月十六日死下谷新寺町

西應寺葬

赤人　原林源太兵衛

貞享二寅年十一月廿一日桜田御殿より
文昭院様御母　長昌院様御用達ニ而新
規百俵被下御合力拾人扶持被下○同四卯
年正月廿一日加増弐百俵○宝永元申
年十二月十二日西丸桐間番○同二酉年
正月廿六日御用達ニ而御合○同七寅年
十二月十八日加増五百石○享保四亥年十八
月廿日致仕○同六丑年十一月十日死六拾
六歳浅草新堀端竜宝寺葬

赤川　原林縫殿　源之助

享保四亥年八月廿日御目見○享保八
卯年十一月九日死二拾五歳同寺葬

赤麟　実小林和泉守友成四二男　原林源太兵衛　大番

享保八卯年十一月廿二日縫殿養子跡目○番入保

二歳 年十二月四日 御書院番ニ而 延享元子
年十二月廿八日死 二拾二歳 宗円寺葬

嘉政　原森源太郎　頼之忠

延享二丑年二月二日家督 寛延元辰
年七月廿九日 西丸御書院番 明和二酉
年九月二日死 六拾二歳 宗円寺葬

嘉成　実某田村某之二男　原森勘次郎　高九百石

明和二酉年十二月四日家督 同六丑年
八月八日 御小性組 安永五申年 月日 光誉
馬田信

菅原姓　高八百石

瓦林　菱　蔓文柏

瓦林三郎兵衛嫡孫継治曾

瓦林清太夫

家中

自享保卯年九月十八日採用被成シ
長昌院殿御用役手附割ニ而御賄百俵〇元
禄二巳年十二月七日初而〇〇目見未年正月
十一日出仕人ニ而加増百俵〇宝永六丑年

十二月十二日桐間番○同三年正月廿八日御
中奥小姓○同七寅年十二月十五日
加秩五百石○享保六丑年八月十九日死
六拾四歳浅草新堀称宝寺葬

良時

川勝丹波守某次男
実ハ川勝半左衛門広有女処腹

風林清右衛門

幸病 [redacted] 織之助 号水

清光院

元禄十四巳年十二月十八日智母長子○宝永
六丑年四月十八日相続○享保六丑年十
一月二日寄合○延享二丑年九月十二日死

小姓組○宝暦六子年四月十二日死六拾七歳
同寺葬

良泰

二男母某氏

風林清右衛門 織之助 一号泉

宝暦六子年七月六日家督○同九卯年 同年十二月廿五日御目見
四月五日西丸小姓組○同十一巳年八月二日
御本丸○同十二午年十二月十五日西丸御
○明和二酉年十二月十五日中奥小姓番○
安永二巳年七月十八日御徒頭○同四未

年十一月廿六日病死跡目〇〇年十二月

十九日死ニ付家督同年之跡

良順

石森二郎左衛門嫡　幸之助

高八百石

安永六申年十二月廿六日家督〇〇〇〇元

丑年〇〇月廿日病死跡書〇〇〇〇二貫

年十月廿六日〇〇〇〇〇〇年十二月

十日〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇二年〇月

〇〇〇〇〇〇年十二月〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇年十二月十八日〇〇〇

高千八拾石

五ツ紋　〇〇〇〇

藤原姓

春日

日野家春日帯刀為孝嫡流　〇〇〇〇

十二代

春日〇〇〇　八郎　〇〇〇

某定

天文十四年武州忍城〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

天正十八寅年小田原陣の時岩槻城
の攻ニおゐて働有之其後家康公より武
蔵君より氏政江遣さる野山八郎右衛門
衛門尉ヲ以て五百石被下置候
以来知行百石ヲ加へ代々御旗本
御家ニ而五百石相勤罷在候老衰ニ付
而隠居仕候慶長六年伊賀ニ而病死
嫡尾太郎右衛門勝孫二郎之
人御旗本元和元卯年七月日病死

七十五歳家紋祥林寺ニ葬

家督

春日左衛門信

父之跡目被為仰付五百五拾石被下置
二之後従御旗本二之後二条御番
寛永十六卯年四月二日二条ニ而死
七拾七歳五百石之内時春日左

家次

太郎兵衛
家督二男
春日八十郎
後ニ市

寛永十六卯年　家督○御小姓組○病
免○延宝六午年　致仕○正保九年
日光山御宮番勤仕○元禄二巳年
六月九日死　八拾六　葬武蔵中野国村成
照平寺

義陳　春日九兵衛
延宝六午年　二男召出○家督○御小
姓組○病免○宝永元申年　六月卒

日死　八拾五　葬武蔵同寺

行條　春日五郎兵衛　同義陳
二条河総御中之一番来
嫡にて文左衛門実子二男
貞享元子○宝永元戌年　七月廿二日
御小姓組○同七寅年　六月十四日
御書院番組頭○享保元申年　六月廿八日御徒頭○同六
丑年　十二月廿五日御目付○同年十二月十六日今之役
時服二○正徳元卯年　正月廿四日御使役

○寛保十戌年（享保三　十月廿八日　病死）分命○月三宝寿年十
月廿七日死七拾二歳東漢寺法福寺葬

行宗

実者寺尾左京倫将養子
内記分　自由
春日九兵衛　初名九郎　後ニ助

寛保二戌年十二月十日継目御目見○同
三亥年十二月廿七日御目見○安永三
丑年十月廿九日御鬼書役出勤○宝暦
十二巳年十二月廿六日病死○明和八卯
年八月八日被仰付役儀自由ニ而復

天明七未年十二月八日死六拾三歳法名
武州中野田村明照寺葬

行雅

実小尾左衛門行雅二男
春日左衛門

明和五子年十二月十二日鎌倉家督○同
八卯年八月八日御目見○安永元辰年
十二月廿日御書院番○同九子年十月
十日病死○中山勘解由支配組頭

丹後守へ御達し於表御番衆と申合
無評定所ニおゐて隠居被仰出を行
射ニ而天明元丑年九月廿八日為於
籠置ル所寛政八辰年七月廿一日
死罷在九歳清浄院殿寺ニ葬

行道

実ハ吉田勘九郎行宗二男
春日つる与吉

高千八拾石

安永九子年九月廿九日家督天明元

丑年十二月二日足文江戸府中揚屋
預ケ置之處同年九月廿一日隠居被仰
九ヶ所宗数評定所ニ而申渡候
天明三卯年十二月廿八日病死仕候
上役人寛政九巳年十月廿六日東
軍流五郎兵衛上総五郎兵衛

藤原姓　高八百五拾石

春日　家役 [illegible]

正三位同從四位經家一男春日大宮局代

大宮姫子春日社家大宮二十二世之嫡流

春日下世万京之一男

奉行

春日大東伊作

北條氏政に仕へて後氏房に属す其四
ますいふ赤松佐竹と合戦の時先陣に
すゝみ敵二騎討取疵をかうふりて後
下向の清水と合戦の時多甲の首をとり
て敵陣へ押入敵を多く討取たとく
其后又にかれ与方の生涯ふかくして数ケ
所疵を蒙りなから敵一騎を討取て
後氏房没後北條唐津に移居の仰
父家定とたかふ

家春

重目孫吾

東照宮へ召出され食禄五百五十石賜り
台徳院殿へ奉仕并大御番の士となる
となりて後御小納戸頭を勤め元和元
卯年伏見城大番の番寛永二丑
年二條城大番の番同十六卯年
七月二日死七十五歳法号宗東禅林寺
に葬る

東照宮
御位牌役 大番の元和八戌年十一月十二日死
三十二歳大久保大泉院ニ葬
中高家ハ百五十石被下祖父京宮ハ千
五百石又家督ハ五百五十石被下候
五百石ヲ又家督ハ被下五百五十石
八家督ハ被下家督五世ニ至り知行
百石八兄弟家督ハ被下ニ善日ニ至
家督相続

吉春

善日九郎右衛門

寛永十一戌年大番 ○ 知行網来不足
三月廩米ニ而御門番 ○ 寛文元丑年
八月九日死四十二歳小日向龍興寺ニ葬

満英

實服部久左衛門貞寅男
善日九郎右衛門

日記 東

明暦二申年初見。○万治二亥年七月
十四日大番。○寛文元丑年十二月十日家
督。○貞享二丑年十月七日死。四十八歳。
円ち上義。

貞顯

実者京極采女正貞代二子
春日河内守　初左近　左京　九右郎

延宝六午年二月廿二日初見。○同年十二月
廿九日大番。○同八申年三月廿六日廣敷

二百俵。○天和二戌年十二月廿二日桐之間
番。○同三亥年二月九日御小納戸。○
同年五月廿九日加増二百俵。○貞享
二丑年七月三日布衣。○同年十二月十一日
家督を継、加増二百俵ハ収公。○同三寅
年三月廿八日閉門。同年五月十五日宥免
小普請。○同四卯年五月十八日桐之間番
○同年六月廿七日御小納戸。○元禄五申
年正月十一日加増三百俵。○同年十月

十八日御小性○同年十二月二日詰方支河
内ヨ○同七戌年二月十日加増三百俵○
同十二卯年閏九月九日銀百九拾枚拝領
○同十四巳年十二月廿三日死 四十七歳 円
寺葬

顕道

元禄二巳年七月廿二日誕生○同

幼名九右衛門 九内 九右衛門 吉新

九子年御近習番廩米三百俵○同十
丑年十二月九日御次番○同年四月廿一日
御小納戸○同十二卯年四月廿六日御小納戸頭
○同年閏九月十二日賜今四十歳拝領○
同十四巳年七月九日父負顕相続知千石
五十石之内三百石者顕寛へ分知八百字
石家督○享保八卯年二月十六日御書
上勤庫今一枚○同十七子年閏五月
廿九日病死○同十八丑年五月廿五日葬

〇寛延二巳年死七十一歳同寺葬

行清

春日左太郎 左門

享保十八丑年六月廿八日家督 〇同年六月十三日初見 〇同二十卯年二月朔日田安御屋形勤番 〇元文元辰年八月廿八日勤番御免 〇同三午年十二月廿三日大御番 〇同四未年九月九日吹上[illegible]翌子十日御扶持二 〇同六寅年十二月十一日吹上御花場始付御扶持二翌子十二日金二枚 〇宝暦四戌年六月廿六日大御番[illegible] 〇明和七寅年十二月九日死六十七歳同寺葬

廣端

春日左太郎 喜三郎 左門

高八百五十石[illegible]

宝暦二申年六月朔日初見 〇明和七寅年十二月廿七日家督 〇安永三午年

六月廿六日元之方出羽戸。同年九月十六日
再於出羽戸。同卯未年十月廿九日新田若
。下ヶ内卯庚年十二月廿七日寄於出羽戸
揚刑部卿ヒ毛り付同廿七日十一日ヘ去ゐ
同年卯月十日出仕。寛政七年三月廿日
也今拝用

龍頭

春ノ　称号

実春ノ宅保惠所　春満惠所

寛政七年十七日今西ノ宇中納戸

藤原姓

春日

高西三石

中嶋役　獅子　鶏摩　牡丹

壬日河内守貞顕次男

顕寛

春日左京　左衛門

元禄五年十月廿六日

元禄十卯乙年七月九日父高之同三百

石分知。同十六年十一月廿日死小日向

龍興寺葬

実勝田弓負次三男

顕勝

春日九七郎

養子○元禄十五年十二月廿二日家督○享保九辰年八月十二日甲府勤番○同年九月廿八日御役御免○同十六亥年六月十三日死 三十九歳 甲府大泉寺葬

実一色刑部殿組遠山書拂家孫七郎正彦次男

顕孝

春日岩次郎

養子○享保十六亥年八月廿日家督○元文三午年正月十九日死 門寺葬

実天野清方次男

顕生

春日友三郎

養子○元文三午年七月四日 養子 家督 甲

廣敷番○延享元子年三月廿日御目見人
○同二寅年十月廿五日死同寺葬

顕令

実天地了平清吉三男
春日熊次郎

養子○延享二寅年十二月廿六日養子家督
甲廣敷番○寛延宝暦四年七月廿八日
部屋上初目見人○同九卯年十二月十七日上勤表
限十六枚○天明四辰年四月廿九日死
之道隠居○寛政元酉年同六月十九日
死六十四歳同寺葬

顕寛

春日左次郎　後淡次郎　二丁斗
高三百石
天明四辰年四月家督○寛政八年七月
部屋上初目見人○同九年十月廿七日大番

号西面名依

藤原姓　　　乃義　源金　賜摩　播枝丹

春日

春日名庫頭行光長男春日九名清次家次

惣領

家久　　春日八郎左衛門

後有院殿御代初座候よて由之院書院取

三百俵。慶安二丑年四月日光御供。寛文四辰年四月十日死　三十歳　中野明（田村）
照本寺葬

倫

倫桐（ヨシ）　春日左京　主馬助　隠居　世杖

実ハ[illegible]八十郎長男

寛文四年十二月十日継父八十郎[illegible]跡
御嫡孫左京倫桐ト六百石分知。
天和二戌年六月御広院番。貞享
四卯年十二月十六日桐之間御番。同年
五月十四日御書院番。正徳二辰年六月
廿三日病免。同六未年十二月十一日務よりて
隠居。元文四未年十二月九日死
七十八歳　市谷長昌寺葬

倫

倫儀　春日左京　隆慶助

実父[illegible]十六年十七

享保四亥年三月廿七日御

内閣文庫

15

国立公文書館 National Archives of Japan

書院番。宝暦八寅年十二月六日病免。同九卯年七月八日死六十七歳円寺葬

安永四年十二月十七日
後養子

彩柯
実二男
春日八十郎　高六百石　常陸
宝暦九卯年十二月六日家督。（卯年十二月廿六日御目見）安永六申年十二月廿六日御小姓組。

貞晴

〇

源姓　高二千弐石
片桐
家紋　輪内ニ違ヒ井桁　亀甲内ニ花菱
満政十六代孫片桐肥後守直貞二男

貞隆
片桐主膳正
太閤秀吉ニ仕、賤岳二三本之合戦之節
軍功ニよつて追々加増あり　秀頼

之都合一万五千弐拾石領し大坂再乱
後元和元卯年おゐての遺所知行○
寛永四卯年十月朔日死六十八歳貝塚
青松寺葬

貞晴
貞隆二男
片桐勝七郎　初 孝寿丸
寛永四卯年十一月父の跡式より
一万五千石の内二千石分知○慶安
三寅年十月廿日死　三十五歳
紀乃宮野宝光院
京都大徳寺中高桐庵葬
ヨ葬

之晴
実一色右京助範次二男
片桐帯刀　新之丞　可夕
初 年松
養子○慶安三寅年十二月家督 養子
○寛永二酉年十一月廿九日新了より而
致仕○同三戌年十月九日死六十九歳
同寺葬
紀州高野山寶光院葬

為晴　片桐平八郎

延宝六年五月十日初見
宝永二酉年十一月廿九日家督。[illegible]同七寅年二月六日死　五十一歳　渋谷祥雲寺葬

友晴　片桐帯刀　孫太郎　同苑妙

宝永三年十二月廿五日初見
宝永四亥年七月廿七日家督。[illegible]同七寅年六月十九日御門番。正徳三巳年御役御免。同六申年小普請入。享保四亥年御免。[illegible]同十一午年正月廿八日御使番。同年二月小金原御鹿狩ニ付御供、馬上ニて御小姓組歩行並御書院御附添相勤。同年十二月十六日布衣。同十二未年八月四日駿府御目付代。同月十六日御暇、金二枚時服二。

同年十二月廿八日拝謁。同十七子年七月
廿日常憲院殿御鍼灸引渡同年六月朔日白銀
令二枚同年七月廿八日拝謁。元文元
辰年十二月十六日御役不相應ノ付寄合
差扣。同二巳年二月十日御免。寛保
二戌年十月九日赤坂御門番。延享二
丑年十月廿日御門番御免。寛延三午
年正月廿四日牛込御門番。同年十二月
廿二日山下御門番。宝暦三酉年正月
十一日御免。同十辰年十月廿八日死六十
九歳同所葬

友遊

比桐弟力 虎之助 民部 宗幽

延享元子年十二月廿一日初見。宝暦
十辰年十二月廿八日家督。明和四亥
年六月廿日山下御門番。同七寅年
六月廿三日御免。安永二巳年九月十

一日赤坂浄心寺○同八申年九月八日出先
○天明三卯年十二月廿七日致仕 同年十月十二日
宗叢(?)○享和元年十二月二日死 七十四歳(?)

佑賢 初政晴 片桐新五 隣太郎
高三千二百石 大和河内摂津内
宝暦十二未年九月六日
孝恭院殿御文末小人勝手綿章○同年十二月
十六日御免○天明三卯年十二月廿七日
家督○寛政元酉年十二月十二日清
水口法門書寛政六寅年二月十一日御使番
同年十二月布衣○同(?)門七年十二月
従五位下○享和二戌年七月十七日致仕○同月
廿四日宗古(?)○文化六巳二月十一日死

源姓　三千石

片桐　貞房　慕自得翁　嘉幕之月紀養　三河守　別貝人　活仙　風軒　自号

備後守出片桐主膳正貞隆君頃

貞昌　片桐石見守　三郎左衛門

元和三巳年初而來謁〇寛永元子

年十二月廿八日叙爵〇同四卯年十一

月家督〇延寶元丑年十一月廿日死

六十九歳京都大徳寺中高林庵葬

信隆　下條長兵衛　鶴千代

延宝二寅年正月十九日又右衛門同名
分知妻腹ノ付化蓮小寄合（同年三月廿七日兄）○同年十二月
十一日
禁裏御書物奉行同年十月十二日御勝手今三
枚付被二羽織○同四辰年十二月

後西院震翰色紙拝領之○同年七月廿九日
明正院より御扇子二本拝領之○同年十二月
禁裏より二十一代集巻頭和歌ノ御読并十
二月花鳥和歌ノ御読三十六人歌仙并
後拝領右今ノ所持○同五巳年七月
十五日御朋○同年五月十五日寄合
三枚付被下○御書院番○天和二戌
年五月十五日御使番○同年七月
十七日日光御目付代○同年布衣○

同年十二月廿一日大坂御目付代同三年十二月十五日御暇金五枚同年十月朔日御持弓。同巳未年同八月十一日御先手御鉄炮頭。宝永三戌年正月十一日御鎗奉行。○老衰ニ付相勤かたく御寄合ニ被免。○正徳六申年十二月十八日老免ニ被抜三。○同年七月朔日死九十二歳法名祥雲寺葬

正徳二年十二月廿五日御目付代役高不足之分米二百俵上ヶ米二百俵下

信澄　実石川八郎左衛門某三男　下條巳記　頼母

元禄七未年十一月十一日養子。○同八申年十一月朔日御目見。○同十六年十二月九日御書院番。○同九子年七月廿二日桐之間御番。○同月廿五日御書院番。○同年六月十九日御小性。○御書院番。○正徳元子年五月七日ゟ一奈馬上覧同月十一日褒金一枚。○同五未年八月十七日伏見人（実家新番組）

奉行石川備中守殿家来沢井長子處分

実大久保甚九郎忠直二男
下條半右衛門　万三郎　主計

信道

正徳五未年十月十六日養子。同年十二月十五日初見え。享保元申年八月十九日家督。同年十月十八日御書院番。同九辰年十一月十五日二丸附。西丸御書院番。寛保元酉年二月廿日

死此十九歳門前上葬

信興

片桐長右衛門　長之丞　頼母

寛保元酉年六月二日家督。同三亥年七月廿六日片桐ヲ改。寛延元辰年十二月朔日本家片桐主膳正ヨリ義絶ニ付テ同二巳年正月廿日由今年ノ月義絶之訳承知御小普請同年此月十日改方両行席ヱ

にて再御目見○同十辰年
七月廿七日御書院番○同十二年十二月廿
八日桃園にをいて大納言様ニ附○同年
十二月廿三日御本丸御小納戸成ニ付及同月廿
七日御役之○明和二酉年六月晦日病免
○安永九子年四月晦日隠居仕○天明四辰
年六月十七日死ス六十歳同寺葬

信馮（タカ）　片桐長之助　内蔵助
高一〇〇石　河内国 大和国之内

同年六月十三日家督
安永九子年四月六日家督○天明元
丑年六月七日御小姓組○同二年九月
十七日依願ニて小普請入○同四年二月廿
日西丸御番入○寛政之同三年九月廿
日○同十年二月廿日小姓組番御徳ニ○
同年四月九日武術ニ付...

高三百五拾石

家紋 十六目 五ツ箱

平姓

片山

秩父太郎重弘次男武蔵国片山ニ住人

片山三郎重遠十二代片山丹波守国兼三

代信濃国本曽ニ住人肥田源重国定嫡男

実ハ足利義氏家臣片山豊前守政国

嫡子

国次 片山源右衛門 三七歳

国次ハ父肥田源重国定之八業の時ニ文

片山豊前守没国死しあれハ信濃国ニ
流浪し本当の侍人肥田某ニ家ニ養ちる
その後肥田某死をしりハ国定ニ家を
嗣て肥田源吏と名乗る天文十一年国定
死して国次家を譲くられと国次年来
いとまなかりしかハ小田伊賀守某ニ
やしなはる
東照宮いまた岩淵よをもちたまひる永禄

元年七月免して知さかれく康承百余指揮と
徳ひ出彼友ちりまの時本氏山縣よ後をくべき
ましと命をうられ片山と名乗り本某七郎
義治様本多八郎とおもしく管作の祐筆引
きり○元亀三年十二月
東照宮武田信玄味方ヶ原にて戦ひ給ひし
時国次供奉して○天正十二年四月九日尾州
小牧山長久手京同十八年四月小田原の役

国次常ニ庵従しまゐらす〇関ヶ原乃役ニハ
国次国家父子おなしく東照宮ニ供奉る〇同十九
年大坂のときもおなしく時もまた従ひ
奉る〇元和元年正月老として致仕
〇寛永元年六月十八日死八十五歳也家
下寺松岸寺ニ葬ル

国家　片山三七郎

慶長五年九月父と同しく関ヶ原出陣ニ
従ひ〇同十九年の冬大坂の役ニも供奉る
〇元和元年正月家督被仰付役父のことく
當城乃諸奉行及小奉行を兼同しく支配ス
〇同年五月七日大坂落城の時同職番国文ニ
とおなしく城内へ攻入国家敵一騎を突伏
又生虜ハ敵を追拂ひ其騎を分捕る
両御所御感ありて御前ニ召され黄金三枚

を給ひ御凱陣の後今度の軍功を賞せられ（辛卯十一月七日首帳にしるさる）

廩米三百俵を給ふ（四年七月）かねて給はりし百五

十俵は父國次か養老の料に給ふ○元和

二年正月十七日忽死三十七歳同所に葬

大坂落城の時國次か捕へし朱塗大旆

十枚（金）黒塗金塗内朱塗の大旋甲冑一領幷

國久

實は信濃守家臣伊西彌右衛門道利か男

片山源右衛門

清十郎

之元和二辰年正月廿七日國家死して子なけれは

其家既に絶ゆへきを國家か父國次か志

をゆるされ國久して（同年七月）（叔父なり）家嗣たらしめ國次か

養老の料百五十俵を給ひし給はりし

三百俵は収公せらる此後○寛永十九年

九月十三日日光山

東照宮御宝塔御造営奉行を務しのち

其労を賞せられて采地一百石を加へらる（あはせて）

○明暦三酉年十二月廿六日御逝去○万治二亥年
七月廿日死六十六歳同所ニ葬

久遠（実松平大和守内）竹山源右衛門　三七郎

養子○正保元年御誕生被成候処○御本丸
御逝去○西丸御伽相勤○諸工ゟ安御奥屋
御伽相勤○松州多武兵衛御逝去○明暦三酉
年十二月廿日家綱様御被成○延宝三卯年

禁裡新院御逝去ゟ廿年立秀毛○
後紀州高野山大徳院
東照宮及ひ　台徳院殿御霊屋有之○
三河国大樹寺被捧有之候○日光山
大猷院殿御霊屋徳門中門御修理之事行
同山　御宮御仏殿及ひ本坊御造営御用
○其後遠国川筋御普請○延宝八年五月
東叡山

厳有院殿御佛殿御造立○元禄二年七月廿一日
死去　孫三某同所ニ葬

満国

片山三七郎　権平

延宝三年　禁裡御造営御用○同四年
七月二日御被仰付候ニ付御褒美ニ人数扶持
下給○其後御棟木改○紅葉山
厳有院殿御佛殿○千間小屋○浄光院殿○

日光山御宮御造営御用父と同勤○元禄二
年九月十三日家継御被仰付○同三年二月十
九日新規御被仰付相勤○同四年日光御宮御
用相勤州御蔵武州御蔵元分○麻布新殿○遠
州新居尾州熱田○修理ニ付
清揚院殿御佛殿○駿府御修復石垣等承之人分
御用○宝永元年六月廿九日御作事見分○同六年
十二月十六日上野

常憲院殿御表座御造営の労営(?)加秩五拾俵
〇同月廿六日武蔵下総おゐて(?)御抹之御用
の賞として時服二ッ金二枚を給〇同七年九
月廿八日隠居す
清揚院殿御表座の荘厳なりし賞時の服二
〇同年十月廿一日芝口の御門なりし褒賞
銀廿枚〇正徳二年十二月廿八日東叡山
長昌院殿御佛殿御用褒賞時服二〇正徳二年

九月十八日日光山より復謁黄金三枚を給
〇享保二年八月十八日
有章院殿御表座御造営の賞加秩五十俵
〇同九年正月十七日死七十一歳法名中龍泉寺
同寺葬
常憲院殿より御役手御小摺同御茶碗給ふ
今に所持

國當

実森與五右衛門豊充次男
片山弥三郎　主計

元禄十六年六月十三歳養子○宝永七年四月朔日初見○同年七月八日大工頭見習○享保二年二月廿七日死廿七歳同寺ニ葬

國豊

実子二男
片山武右衛門　後弥次郎　改内吉

享保二年六月二ノ惣領
享保二年二月廿六日大工頭見習○同九年四月二日家督○同十六年十二月廿六日勤方不宜小普請入差扣○同十八年十二月十八日差扣御免○寛延元年九月十二日小普請金取集役○明和六年正月十六日御勤定○同八年四月九日死六十九歳同寺ニ葬

國雄

片山三七郎　後縫殿　求馬

明和八年七月八日家督○同年十二月廿七日小十人○安永六年六月九日病免○天明六年七月廿二日五十一歳ニ而死同寺ニ葬

圓張

片山猪平　高三百五十石

退名　圓鈴

天明六年閏十月六日家督

寛政四年九月長番頭之

寛政十二申年二月晦日於任　天保九戌年二月廿二日病死

在職

藤原姓

片山

高百五拾俵

家紋　[illegible]

片山太兵衛為嫡子片山[illegible]

治之代ニ付[illegible]

貞顧（モト）

片山六太郎

元禄五年五月廿五日新規被召出下書

米百五十俵○宝永五年十月廿三日死後

吉兵衛小姓

貞隆

實荻原某人某男
片山某八郎

宝永五年十月十七日養子○同年家督○

正徳三年六月十八日小十人○享保十一年八月

廿二日小普請組○寛保二年十二月三日組頭

宝暦三年十月十五日小普請組支配組頭

組頭隠居○宝暦十二年三月廿八日死同日葬

七十五歳

貞諧

片山織部

寛延三年十二月廿九日大番○宝暦十年十二月

廿九日病気大番ニテ返し支配○同十二年八月

三日家督○明和元申年十二月廿九日死同日

小普請入

貞明

伴野左兵衛某二男

片山与八郎

左文治

明和元申年閏十二月廿七日急養子家督

○安永二巳年十一月廿六日小十人○同七年

二月四日大御番入○同七年

十月二日死　江戸十方菴同寺ニ葬

貞恨

実伴此今尾貞庵次男
片山哉三郎

天明七年十二月廿九日家督○同八年九月十六日小十人組○寛政六年十二月廿七日天的被仰付○同七年二月
参勤之子

東照宮御代

片山

源姓　　高弐百俵

家紋　梅輪 三巴

近江国佐々木之城主佐々木三河守末流
源左衛門尉後三河守在安之用代佐々木左京大夫尉
後片山 左京之 後安之男

宗紀

片山市三郎

少年より医業を学　天正十年

仕フ元和五年十月十四日死ス歳八十算

宗哲　行山与安

実ハ慶實ノ男

吉子○家ノ十四歳ノ時一鴎宗虎ニ

随テ醫術ヲ学フ慶長二年宗虎ノ奏

者ト成

東照宮ニ於テ玉顔ヲ拝謁ス十五年ニ叙

法橋御征伐ノ時野州小山ニ供奉ス時ニ

石田治部少輔三成江州佐和山ニ於テ

反逆ヲ企テ西戦ニ党類縁甲兵ヲ起ス事

ヲ聞テ其役ニ御供シテ関原ニ於テ相勤

既ニ尾州清洲ニ至リ御前ニ於テ此日御帰

不豫ノ處ニ宗哲御薬ヲ献シ今度大ニ

御快ニ成ル其効ヲ賞セラル同後慶長七

年三月十五日山城國ニ於テ采地三百石又廩

米式百俵合五百石ヲ給リ御側醫師○

同八年四月廿八日法眼○同十一年五月十
五日法印
大猷院殿御疾之業ニ付出府御究醫ニ術
を盡付
東照宮武州江戸ゟ大坂御大ニ出馬
為ニ御進発之節得給御陪従等ニ後衆
台命家継御業ヲ以出口渇大坂城し
御勢退令御帰陣至極
台徳院殿御感之餘令銀出給次義○

東照宮及尾張大納言義直之紀伊
大納言頼宣之水戸中納言頼房ニ出仕
例ニ之ニ付宗家出業とより蒙台命
製法八之字并萬病為此家ニ而浪丹薬
黄清丹為萬病為余等ニ出業ル給法
大名家老十九年同廿年大坂出陣
供奉○元和二年
東照宮駿府ニ於テ御薨去侍ニして同國
因幡御命於此地亦止宿至極末

御座誕御胸癰常甚御危急於安宗
哲法薬をまいらせ御験兼行り御還路
ニ付御尊様ヲ拝シ法所之殊更又其元和
四年
台徳院殿為台命於御城万病為製
一剤仍捧頂十之二一元和六年頼房ニ於
常陸水戸城患給瘧疾時宗哲進薬
台命速至彼地御薬をまいらせ則御平愈
元和八年五月十八日死行年五十歳

應寺葬之

宗琢　片山豊庵
元和九年初見○同年正月五日叙法橋
侍医師号法眼○寛文元年四月十八日
死テ同寺

宗玄　竹山某
尾張中将殿
医ニて候

宗賢　竹山其庵
寛文元年六月十三日家督寄合〇同十一年七月三日死去同寺

玄現　竹山与庵　初水沢三郎左衛門
寛文十一年八月十八日養子家督寄合〇同十二年十月廿五日死同寺

玄實　竹山宗元　吉三郎

玄信　竹山宗元　吉十郎
寛文十二年十月廿五日玄現死去実子無之家絶申候段々之延宝元年二月廿八日為名跡蔵米弐百俵被下同年十月十五日御番医師〇元禄七年十一月廿二日寄合〇同十一年六月七日死去六十九歳稲口妙寿寺ニ葬

元禄十一年七月十八日家督○享保八年
九月廿三日死　同寺

玄昌　片山宗元

享保八年十二月廿七日家督○寛保二年
七月廿六日致仕○明和二年十二月七日死
七十二歳　同寺

玄宗　片山与庵　要人　春臺

実林斗安法眼玄益男
寛保二年七月廿六日養子家督○寛延元
年正月廿八日小五郎殿附同年二月
八日小普請信令御免勤仕並○同三年十
二月朔日御薬調所○宝暦十二年八月廿
九日死五十二歳　谷中　感應寺

玄年　斤山宗哲　七三郎
實木村謙斎季伯男
宝暦十一年三月十七日養子○同年十二月召出家督○明和六年二月廿七日當醫師○天明六年六月十六日死[illegible]
同寺

玄篤　斤山宗琢　亀太郎
天明六年九月召出家督
文化元子年九月[illegible]日病死[illegible]

高百五拾俵五人扶持

藤原姓

斤岡　御普請役　元〆内勘定　勘定吟味方改役

大織冠鎌足六代之後胤大和国高市郡

斤岡郷ニ来迄其後斤岡民部少輔総利

二十二代斤岡隼人正某嫡子

信光

斤岡主水

権現様ニ初　召出慶長六丑年御徒

台徳院様御代御徒組頭其後御廣敷添番〇

寛永十二亥年十二月十四日死　六十三歳
目白坂大泉寺ニ葬

信由　竹岩長左衛門

寛永五辰年御目見○同十二亥年家督○
同十三子年表火之番○慶安二巳年病氣ニ付
御目付支配無役○寛文三卯年二月十七日
死　六十五歳　同寺

信昌　竹岩長左衛門

寛文三卯年十二月家督御目付支配無役
○同九酉年表火之番○延宝八申年十二
月御徒目付○正徳三巳年六月二日火之番
組頭御加増五拾俵都合百五拾俵ニ人扶持
○享保八卯年六月病免○同十二未年
十二月九日死　八十二歳　同寺

信慶（ツサ）
斤岡九八郎　源太郎
元禄十二卯年六月御徒より入人○同十六
巳年八月廿日相之書物書○同九月十五日
御次番年寄支配ヶ旅　御広敷
御目見人○宝永三戌年七月晦日二丸張番
○享保元申年七月十九日張番より小普請
入○同十二未年十二月廿七日家督○同十九

寅年十二月廿五日
小石郎殿御用達○寛保元酉年十二月
十日御同不調法○同二戌年十月晦日
刑部卿殿御広敷用人其後奥裏合役
○宝暦七丑年八月廿七日死七十六歳同寺

信方
斤岡小源次　辰之助
享保廿卯年十二月十一日御目見○宝暦七丑年

十二月十二日家督○明和元申年八月十二日隠
居剃髪信方○天明元丑年同五月廿二日
死同寺

信勝　片岡九八郎　小膳　徳吉
明和元申年八月十二日家督○同四亥年
同九月十九日表裏衆○寛政元酉年十月
二丈錫茶碗富之助作仕並一件ニ付御役
御免小普請入因門ニ而慎御免○同九巳年
四月十二日隠居　享和元酉年四月十日病死
同寺葬

信満　片岡永次郎　九八郎
高百五拾俵五人扶持
寛政九巳年四月十二日家督
享和三亥年二月廿六日民部卿殿徒頭同目附○
神田橋屋形御用取次○文化元子年九月十二日物頭○
同九申年六月廿四日物頭○文政二卯年二月廿七日病
死葬同寺

菅原姓　　高弐百弐拾俵

泉致　九郎兵衛

初蔵

片器

片岡玄右衛門信光二男

信行

片器校之儀

享保十九寅年父依願新規ニ御召抱之

宛行食禄四十俵大坂ニ而御陣代ニ被仰付○元和

三巳年西丸勤○同八戌年御役之奴○寛

永元子年御役目附並ニ而加増五拾俵其後

小石川 御蔵之者 小石川御門之内同蔵ニ
勤者有之由御勝手ニ候得共不残数其
後 上ル御場所ヨリ御加増百俵被下都合弐百弐拾
俵○慶安二丑年御蔵奉行○寛文三
卯年十二月廿四日死七十歳葬地正行寺

信政　行器検分

寛文四辰年家督○同六午年御徒目付

○延宝四辰年大嘗進上之絹組頭○元禄
十二卯年老免○同年七月隠居○宝永三
戌年十一月廿七日死八拾二歳同寺

信就　行器検分

元禄十二卯年七月家督○同十五午年
九月廿日支配勘定○正徳五未年十一月廿日
御勘定同十二日御目見○同年十二月廿二

巡見之御用○享保元申年十二月廿二日歳
令武蔵伊勢國山城近江國丹波國丹
後國△ケ国見分○元文二年四月病免
許○同四未年正月十五日死七十二歳同寺

信
僖(ヨシ)　行器忠十郎
元文四未年四月二日家督○寛保元酉年
十一月廿日一橋勤番○同三亥年十月八日
勤番御免○延享二丑年九月十三日小十人組
○明和四亥年九月八日病免○安永四未年
閏十二月十二日隠居○天明二寅年八月廿二日
死六十九歳同寺

信之　行器孫之丞
高弐百弐拾俵
安永四未年閏十二月十二日家督○天明元
丑年十月廿七日小十人○寛政元酉年十二月廿七日

新御番○同七卯年二月廿六日小倉原御廉
持御役料子

同心藤原姓　高三百俵
片岡　七家紋　丸ノ内姓衆　左巴
片岡権左衛門信行次男
信安
片岡勘助　百助
慶安四卯年十月六日御非番之節死
右出
長松様ニ而消同日於竹橋御殿
御目見ニ十人○同五辰年御切米百俵之人

技物之寛文元丑年並御加増二拾俵其後
之人技物元之上○同巳辰年廿人組被御加増
七拾俵○貞享元子年五月廿六日御納戸
被○同巳卯年九月御膳奉行○元禄八
亥年十一月廿五日御武具奉行○同十六未年
巳月十八日十人被御加増百俵被合三百俵
○宝永元申年十二月西丸勤同十二月十二日
桐之間御番○同三戌年十二月二日病死之○
同巳亥年正月十日死 七十二歳 孫之二代継

祐隆　行岩勤助　孫又郎　佐織　又四郎

宝永二酉年十一月廿八日初見之○同巳亥年
三月廿五日家督○同六丑年八月廿七日西丸
焼火之間御番○同年十月廿六日桐之間
御番○正徳二巳年五月十八日御小姓組○享
保八卯年二月十二日十七年上勤二付
御目見人数 上意同十六日義令去ル○

同十三申年三月二日日光山御供路銀拝領被
同四月十二日日光御社参御供○宝暦四
戌年二月十四日老衰之褒令載被○同六
子年三月廿四日死七十二歳同寺

信允
斤岩助之丞　千尾之助　左門　内膳
元文四未年六月廿九日御書院番○宝暦
六子年二月廿四日父死同日家督○天明五巳年
三月廿四日老衰褒令載被○同年八月
隠居○同年九月廿四日死七十歳同寺

信綿
斤岩勘助　市太郎
安永六酉年二月廿四日吹上常佩圏的
上覧反物二○同八亥年五月朔日於中里
牽的　上覧反物二○天明四辰年二月
五日吹上常康反物二○同五巳年八月

十一日家督○同八申年十二月廿二日
御目見○寛政元酉年十月二日父縫
殿務宣之悪表子宣之助御仕置被
仰付候私義宣之助與元不届之筋
對判元之候立合以後不念之有閉門○
同年十二月十二日閉門　御免○同八辰年
六月二日御小性組

日本政府図書
内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan